

# 日本教育大学協会 全国美術部門 会報 No.51

編集・発行 全国美術部門広報室  
代 表 小野康男 (横浜国立大学)  
総務局長 新野貴則 (山梨大学)  
広 報 室 E-mail: daibibumon@uaesj.com (総務局専用)  
事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る西大路町  
146 番地 中西印刷株式会社 学会部内  
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662  
E-mail: art-bumon@nacoss.com

## 全国美術部門代表挨拶

全国美術部門代表 小野 康男 (横浜国立大学)



日本教育大学協会全国美術部門の会員の皆さま。昨年度より部門の代表を務めている小野康男です。ニューズレターやウェブでのご挨拶が遅れたいへんご迷惑をおかけしました。現在、会員の皆さまの、大学における業務負担の増大、種々の組織改編を前にして、部門を持続可能な組織とすべく様々な手続き等を見直しているところですが、その中で、迅速なご挨拶を申し上げねばならないところ、恥じ入る次第です。

昨年度、前部門代表増田先生より代表を引き継いで以来、主要な業務は、他の美術教育系の学会等と連携して、中央教育審議会の新たな答申の審議に対応すべく、美術教育の立場から提言を行うことでした。これについては、部門・学会のホームページ並びに美術教育連絡協議会を構成する関連学会等のホームページに掲載しておりますので、ぜひともご覧になっていただきたいと思います。

さまざまな思惑の中で動いている事案であります。現在の状況ではなく、初等・中等教育を経て高等教育を受ける 2030 年代、そしてそれらの教育を受けた人々が社会で活躍する 2040 年代、そしてそれ以降とますます予見不可能性を高める世界を見据えた変革という姿勢は一貫しています。

現在、進行中の IoT (Internet Of Things)、AI (Artificial Intelligence) がその時代どのような姿を取ることになるのか、まさに予見不可能性の代表と言えるでしょう。

部門は、教員養成を目的とする国立大学の学部をもとに組織されています。この中で、図画工作や美術は、他の教科と同じく、子どもたちの能力を育むため、他教科と連動しつつ人間の育成を行っていくことを任務としています。

上記の提言では、アクティブ・ラーニング等、教育が総体として取り組む課題の多くはすでに図画工作・美術教育の取り組み事項であったことを強調しています。しかし、実際の成果はどうでしょうか。グループでアクティブに学習してきた成果は出ているのでしょうか。少なくとも、それについて発信してきたのでしょうか。それを評価するための基準は十分だったのでしょうか。他教科では、そもそも発想されていなかったことが、図画工作・美術教育では当たり前のこととして行われています。しかし、現在の教育課題における図画工作・美術教育の意味を、他教科にとって、そして教育全般にとって役立てていくためにも、教育現場からこれまで以上に、成果を発信し、理論を立ち上げていかなければならないのではないかと思います。

## 平成28年度 役員・各種委員会委員一覧

■代表 小野康男（横浜国立大学）

■副代表

新関伸也（滋賀大学）

八重樫良二（北海道教育大学）

■特別委員 芳賀正之（静岡大学）

■総務局

総務局長 新野貴則（山梨大学）

総務部長 喜多村徹雄（群馬大学）

総務局委員

松尾大介（上越教育大学）

石上城行（埼玉大学）

西村德行（東京学芸大学）

新實広記（愛知東邦大学）

■大会運営委員

阿部宏行（北海道教育大学）

三根和浪（広島大学）

■監事

白井嘉尚（静岡大学）

村松俊夫（山梨大学）

■地区全国委員

I〔北海道〕

三橋純子（北海道教育大学岩見沢校）

名達英詔（北海道教育大学旭川校）

〔東北〕

村上タカシ（宮城教育大学）

新井 浩（福島大学）

II〔関東〕

村松俊夫（山梨大学）

栗田真司（山梨大学）

III〔北陸〕

岡田匡史（信州大学）

柳沼宏寿（新潟大学）

〔東海〕

富山祥瑞（愛知教育大学）

上山 浩（三重大学）

IV〔近畿〕

高木栄一（和歌山大学）

江藤 亮（大阪教育大学）

〔四国〕

山田芳明（鳴門教育大学）

古草敦史（香川大学）

V〔中国〕

一鉢田徹（広島大学）

橋ヶ谷佳正（岡山大学）

〔九州〕

喜久山悟（熊本大学）

吉田悦治（琉球大学）

■学校美術教育支援委員会

委員長 佐藤昌彦（北海道教育大学）

○附属学校部会

部会長 遠藤敏明（秋田大学）

副部会長 片野 一（福島大学）

委員 山田一美（東京学芸大）

○学校教育支援部会

部会長 柳沼宏寿（新潟大学）

副部会長 上山 浩（三重大学）

■大学造形教育連絡協議会

（全国造形教育連盟大学部会役員）

委員長 佐藤昌彦（北海道教育大学）

※大学部会代表・協議会長兼任（H28-29年度）

総務局長 新野貴則（山梨大学）

総務局 西村德行（東京学芸大学）

委員 虎尾 裕（宮城教育大学）

村上タカシ（宮城教育大学）

岡田匡史（信州大学）

大島賢一（信州大学）

監事 白井嘉尚（静岡大学）

村松俊夫（山梨大学）

## 平成28年度 日本教育大学協会全国美術部門地区会報告①

### ◆北海道地区

#### 1. 第1回北海道地区総会の開催(TV会議)

日時：平成28年4月26日(火)12:20～13:00

会場：北海道教育大学

TV会議システムにより、札幌キャンパス、旭川キャンパス、釧路キャンパス、函館キャンパス、岩見沢キャンパスをつなぎ開催した。

● 27-28年度地区理事：三橋(27-28 岩見沢校)、名達(28-29 旭川校)

<協議及び報告事項>

- 1) 平成27年度3月開催の教大協全国美術部門の報告
- 2) 大学美術教育学会拡大理事会の報告
- 3) 平成28年度北海道大会に関する報告事項
- 4) 全国大会の概要文章 HP への掲載等について
- 5) 大会テーマの確認について
- 6) シンポジウムテーマの素案について
- 7) その他

○昨年度組織した準備委員会を実行委員会とし、大会の準備状況を報告した。

<実行委員会>

- ・大会委員長：佐藤(昌)(26-27 札幌校)
- ・事務局長：阿部(宏)(岩見沢校)、事務局：花輪(札幌校)
  - ・シンポジウム担当：南部(旭川校)、佐々木(釧路校)、三橋(岩見沢校)
  - ・広報担当：名達(旭川校)
  - ・記録担当：橋本(函館校)

○実行委員会では、引き続き随時会議(招集会議及びテレビ会議)を開催し、全国大会の準備を進めることになった。

○今後は阿部事務局長が中心となり、随時メール等で確認事項を周知し、総会構成員に了解を得ながら進めていくことになった。

- \* 平成28年度は北海道大会開催のため、以降は実行委員会の活動となり、地区大会総会としては1回の開催であった。
- \* 平成29年3月末に地区理事の名達(28-29 旭川校)の退職することにより、残りの任期については、岩永(旭川校)が後任となることが決まった。

三橋純予 (北海道教育大学)

### ◆関東地区

日時：平成28年6月18日(日)

常任委員・代議員会 13:00～14:00

支部総会 14:00～15:30

協議会 15:45～16:45

懇親会 17:00～19:00

場所：ホテルラシーネ新前橋  
1階レクチャールーム

出席者：全24名

#### ■ 支部総会

支部長挨拶 (代理：茂木)

1. 前年度議事録確認
2. 支部長報告 (代理：新野)
  - ①平成28年度全国美術部門役員状況報告
  - ②平成28年度全国美術部門全国委員会報告
  - ③平成27年度大学美術教育学会運営委員会報告
3. 各大学近況報告
4. 平成27年度会計決算報告  
→会計担当の宇都宮大学から報告された。
5. 平成27年度会計監査報告  
→監査担当の茨城大学から報告があり承認された。
6. 平成28～29年度全国美術部門地区全国委員選出  
→27～28年度担当 村松俊夫 (山梨大学)  
→28～29年度担当 栗田真司 (山梨大学) に決定。
7. 平成28～29年度大学美術教育学会地区全国理事選出  
→27～28年度担当 村松俊夫 (山梨大学)  
→28～29年度担当 栗田真司 (山梨大学) に決定。
8. 平成29年度支部会研究協議会の開催について  
→開催担当の山梨大学を承認した。  
監査は群馬大学が担当することを承認した。
9. 第55回大学美術教育学会「北海道大会」について  
配付資料に基づき、北海道大会の日時を確認した。

## 平成28年度 日本教育大学協会全国美術部門地区会報告②

### ■ 研究協議会

#### 1. 承合事項

配付資料を基に承合事項について説明があり、大学間で承合した。

- (1) 入試制度について
- (2) 学部・大学院教育について
- (3) 免許法改訂にともなう対応について
- (4) 大学教員の定員について
- (5) 学生の教職志向および教員採用の状況について
- (6) 附属学校園との連携について
- (7) 教育組織の多様性の状況について
- (8) 美術教育を取り巻く現状および今後の見通しについて

#### 2. 協議事項

##### (1) 地区会の規程について

###### ① 支部会からの旅費補填の範囲について

関東支部会規則をもとに説明があり、協議の結果、適用範囲が明確になるよう改正することが承認された。

###### ② 各地区会の規程改正案について

配付資料をもとに、表記が混在する「支部会」と「規則」を、「地区会」と「規程」に統一したい旨が提議され、承認された。

###### ③ 平成29年度関東地区代表者の選出について

来年度関東地区会当番大学の山梨大学から順次地区代表を選出できるように輪番を調整することが提議され、承認された。

##### (2) 教育系美術の受験生を増やす方策について

承合事項を踏まえ、活発な議論が行われた。問題を共有したことで、今後も、各大学のさまざまな取り組み・実践を報告する場として、関東支部会を活用していくこととした。

#### 3. 確認事項

特になし。

村松 俊夫 (山梨大学)

### ◆北陸地区

日時：平成28年6月15日(水)  
14:00~15:30

場所：信州大学教育学部 第2会議室

出席者：全16名(新潟大学の3名は新潟大学教育学部美術演習室からスカイプによる参加)

【協議】 (司会：信州大学 小野文子)

- 1 当番校挨拶(信州大学 間島秀徳)
- 2 議長選出
- 3 協議
  - ① 地区会の規定の改正案について  
→全国部門から提案された「各地区会の規程改正案」について、北陸地区としてはアンダーラインの箇所について承認する。また、議論の過程で出された「本会の会員」の範囲については今後引き続き検討課題とする。
  - ② 新年度の地区全国委員・理事について  
→H27-28 上教大 H28-29 新潟大学 H29-30 福井大学
  - ③ 北陸地区全国委員・北陸地区全国理事の旅費補助について  
→これまで2年任期満了時に旅費補助として6万円を一括支払っていたが、今年から「役員担当手当」として、役員2名に各3万円ずつ支給する。移行期の今年は、H28に支給されるはずの分を臨時徴収するため年会費を1千円上乘せする。
  - ④ 平成28年度 事業・予算案  
→信州大学より平成28年度の事業案と予算案について報告があり承認された。
- 4 出席者の紹介
- 5 報告
  - ① 日本教育大学協会全国美術部門委員会報告  
→北陸地区全国委員から報告があった。
  - ② 大学美術教育学会理事会報告  
→北陸地区全国理事から報告があった。
  - ③ 平成27年度事業・会計報告  
平成27年度当番校上越教育大学から報告があった。

## 平成28年度 日本教育大学協会全国美術部門地区会報告③

### 6 承合事項

- ① 研究教育費の区分と額の現状について
- ② 教職大学院化への動向及び設置後の近況について
- ③ 大学院（教育学研究科・教職大学院）への美術科の関わり方の現状について
- ④ 学校インターンシップについての準備状況について
- ⑤ これからの北陸地区会の開催の方法について
- ⑥ その他

### 7 来年度の当番校確認

平成29年度の当番校は新潟大学。

柳沼宏寿（新潟大学）

議題3から5について、各大学からの報告と情報交換を行った。

### 7. その他

報告：

5. アート&マネジメントコースの発足について（静岡大学）
6. 文化庁の助成事業、デザイン研究室での取り組みについて（静岡大学）
7. 学芸課程廃止に伴う配置の課題について（愛知教育大学）
8. 2015岐阜大会（平成27年度全国造形教育連盟・日本教育美術連盟合同研究大会）終了報告（岐阜大学）  
報告1から4について、各大学からの報告と意見交換を行った。

河西 栄二（岐阜大学）

## ◆東海地区

日時：平成28年7月9日（土）

午前10時15分～午後2時30分

タイムスケジュール

- 10：15～12：00 東海地区会 議題1・2・3・4  
12：00～13：00 昼食  
13：00～14：30 東海地区会 議題5・6 報告1・2・3・4

場所：岐阜大学教育学部美術棟1F D108教室

出席者：全18名

- ・静岡大学—白井、大宮、高橋
- ・愛知教育大学—松本、永江、富山、竹井、杉林
- ・三重大学—山口、上山、関、奥田、山田
- ・岐阜大学—谷、佐藤、辻、野村、河西

議題：

1. 平成28年度 部門・学会地区委員について  
平成27・28年度担当 愛知教育大学 富山  
平成28・29年度担当 三重大学 上山に決定した。
2. 次年度開催地について  
担当 静岡大学 が確認された。
3. 志願者数の動向（入試情報）に関する意見交換
4. 卒業生、修了生の卒業後の進路状況について
5. 教員養成大学・学部の今後のありかた

## ◆近畿地区

1. 日時：平成28(2016)年6月26日（土）  
13:00-16:30
2. 場所：大阪教育大学 天王寺校舎西館・大会議室（大阪市天王寺区南河堀町4-88）  
参加者：13名
3. 内容：

高木理事（和歌山大）の議事進行により種々の議題について議論を行った。

- 1) 地区全国理事の挨拶
- 2) 参加者・新任者（滋賀大学・村田透先生）自己紹介
- 3) 会計報告の了承。
- 4) 近畿地区美術部門入会者として滋賀大学・村田透先生の入会を確認。また、神戸大学では今年度末で退職される鈴木幹雄先生の代わりに、教大協近畿地区美術部門を既に退会されている塚脇淳先生が復帰（再入会）され、来年度の連絡係を担当する旨が報告された。
- 5) 地区会の規程改正案について参加者全員で確認を行い、了承された。地区会最大の変更点は地区会役員のローテーションについて記述された箇所、今後は兵庫教育大と神戸大学が合同で当番大学を担当することになる。
- 6) 日本教育大学協会全国美術部門と大学美術教育学会（北海道大会）の日程・会場確認
- 7) 各大学からの状況報告と協議

## 平成28年度 日本教育大学協会全国美術部門地区会報告④

### 【質問項目】

(1) 大学内予算配分の現状と問題点 (2) 院生・学部生の在籍状況 (3) 学部・院入試の状況と取り組み (4) 教員採用・就職の状況と試験対策 (5) 大学改革や教職大学院などに関する取り組み状況 (6) 県や地域の美術教育現場との連携や協力関係の現状・実施状況 (7) その他、美術教育の状況を好転させる取り組みや実践

### 【各大学からの報告】

【フリートーク】全国大会の議題として検討すべき内容など

- 1) 教職大学院一本化に対する取り組み（教職大学院における教科教育の位置付け。教科教育の実績・資産が教職大学院で活かせる仕組み・働きかけについて）
- 2) 幼児教育、小学校低学年教育には沢山の美術教育のニーズがあると思われる。美術教育全体でそこに如何にフォーカスするかが課題となる。
- 3) 倍率の伸び悩み、センターの得点が下がってきている
- 4) 「こんな学生に来て欲しい」と「受験生側から見た大学」のイメージにギャップがある。  
ギャップを埋める方法として、学生の感覚でパンフを作成している。
- 5) この10年で志願者が1/3に減っている。全体として美術志望者が減っている。美術好きの大半が漫画・アニメ好きの女子。それを教員養成の美術ではフォローできない。以上  
江藤理事（大阪教育大学）

### ◆四国地区

日時：平成28年7月9日 12:00～13:30

会場：鳴門教育大学芸術棟（D棟）3階 教官合同研究室

出席者：金子宜正（高知大学），古草敦史（香川大学），佐々木昌夫（愛媛大学）山田芳明（鳴門教育大学）

### 議題

- 1) 本年度の地区全国委員として、鳴門教育大学：山田芳明（平成27－28年度），香川大学：古草敦史（平成28－29年度）の両名が確認された。

- 2) 前年度会計担当の高知大学から今年度担当の鳴門教育大学への引き継ぎを確認するとともに、地区会費の納入、出席者への旅費支給を行った。
- 3) 各大学の現員の確認（山田）  
現員の確認を行った。

香川大学 1名（1名減），愛媛大学 5名（増減無）高知大学 1名（増減無），鳴門教育大学 7名（1名増）

- ・ 現員数は、長期的視点からすれば減少傾向であり、何らかの手立てが必要だという意見が出された。
- ・ 大学改組に伴い、これからも現員の状況は流動的であるとの話があった。
- ・ また、部門と学会、全国と地区の関係を明確に示す必要があるという方向の意見交換を行った。
- ・ 部門会議内に、会員状況の改善に向けた専門委員会等を設けてはどうかという意見が出された。

4) 3月開催の全国理事会報告（金子）  
金子氏より、3月開催の全国理事会の内容について報告があった。報告を踏まえて、以下の意見が出された。

- ・ 教大協の学術的な部分のアピールだけではなく、実態調査と行ったことを踏まえたアピールをしていくことが必要である。
- ・ もう少し社会に広く開いた議論をしていくことが必要ではないか。
- ・ 学会と部門がセットで動いているので、もっと部門を独立した存在としてアピールしていく必要がある。たとえば、部門の大会+学会大会という形式で、部門と学会を明確に区分した大会運営など。

5) 四国地区会 規定改定案について（金子，山田）

- ・ 規程改定案に基づき協議を行った結果、別紙のとおり修正することとなった。

6) 各大学から（各大学代表）

- ・ 特になし

山田芳明（鳴門教育大学）

## 平成28年度 日本教育大学協会全国美術部門地区会報告⑤

### ◆中国地区

日時：平成28年6月25日（土）

研究発表 14:00～15:15

総会 15:30～16:50

懇親会 17:00～19:00

会場：西条 HAKUWA ホテル 会議室 すずらん

出席者：岡山大学（山本和史），島根大学（新井知生），山口大学（上原一明），鳥取大学（武田信吾），広島大学（菅村亨，内田雅三，三根和浪，井戸川豊，池田吏志，蜂谷昌之，八木健太郎，一鍬田徹）  
合計12名

### ■研究発表

1. 「美術科における教科内容学研究について」  
新井知生（島根大学）
2. 「重度・重複障害児の造形活動－美術科教育と特別支援教育の複合研究領域の創設に向けて－」  
池田吏志（広島大学）

### ■総会

1. 開会の挨拶（当番大学：菅村亨（広島大学））
2. 地区理事交替挨拶
3. 議長選出（山本和史（岡山大学））
4. 協議事項
  - 1) 全国委員会・理事会報告  
（一鍬田徹（広島大学））
  - 2) 平成27年度地区会計報告  
（上原一明（山口大学））
  - 3) 平成27年度会計監査報告  
（井戸川豊（広島大学））
  - 4) 協議
    - ①新規入退会者について  
▷変更なし
    - ②新年度の全国委員・理事について  
▷28-29年度橋ヶ谷佳正（岡山大学）に決定
    - ③地区会規程の改正案について
      - i. 全国美術部門規程との文言の統一にかか  
る変更について、原案どおり承認された。ま  
た昨年度の地区会で決定された会費の変更  
〈(旧) 3,000円→(新) 2,000円〉についても  
修正することとした。

- ii. 地区会規程9条を含む定例総会での議決方  
法については、島根大学での定例総会におけ  
る申合せ事項をもとに、規程の改正を行うこ  
とを前提に継続審議とする。原案は広島大学  
の責任で作成し、各大学で審議の上、来年度  
の定例総会（岡山大学）議案とする。

④地区理事1年目の会議のための旅費の補助に  
ついて

▷メール審議のとおり、以下の内容で申し合  
わせ事項として改めて承認された。

- i. 理事会が年2回開催されるので、2回とも本  
部の補助を差し引いた旅費の実費を支払う。
- ii. 宿泊費については、一泊あたり10,000円を  
上限として、遠距離の場合は2泊まで、実費  
を中国地区会が理事に支払う。
- iii. 旅費等の理事への支払いは、年度内に会計  
担当者が適宜、理事に支払う。

### 5. 報告・情報交換

1) 平成29年度学会広島大会準備委員会（仮）  
について（三根和浪（広島大学））

- i. 「28-29年度学会大会運営委員」に、広島大  
学の三根和浪准教授の推薦が決定された旨が  
報告された。
- ii. 現在の検討状況について報告と、大会開催に  
際しての協力依頼がなされた。

日程（案）：平成29年9月の連続した3日間

第1案：22～24日

第2案：15～17日

第3案：16～18日

会場（案）：広島大学教育学部

懇親会場（案）：西条 HAKUWA ホテル

2) 教職大学院の現状について

山口大学からの提案により、教職大学院の現  
状に関わる報告が各大学からなされた。

### 6. 連絡等

7. 次期定例総会当番大学挨拶

（山本和史（岡山大学））

記録：一鍬田 徹（広島大学）

## 平成28年度 日本教育大学協会全国美術部門地区会報告⑥

### ◆九州地区

日 時：平成28年6月17日（日）

12：30～13：30 協議会受付及び年会費、参加費、情報交換会費支払いの受付

13：30～17：00 研究協議会

場 所：熊本市現代美術館 アートロフト

出席者：全20名

18：00～20：00 情報交換会  
(ホテル日航熊本7F ガーデンバンケット)

### ■研究協議会

1. 議長の選出（熊本大学：喜久山悟）
2. 平成28年度理事の確認と承認（熊本大学：喜久山悟と琉球大学：仲間伸恵）
3. 平成29年度理事について（琉球大学と鹿児島大学。代表者氏名は後に決定。）
4. 協議題（議長：熊本大学）
  - (1) 教大協九州地区美術部門輪番について  
基本ローテーションでは福岡→佐賀→長崎→熊本→鹿児島→琉球→宮崎→大分という順番であるが、一巡前の鹿児島における全国大会の際、鹿児島と琉球の順番を入れ替える対応が行われた。その後順番の再調整は行われなまま熊大（H28）→琉大（H29）→鹿大（H30）の当番が予定されている。H30の鹿児島終了後は基本ローテーションに戻すことが確認された。
  - (2) その他（特になし）
5. 承合事項（議長：琉球大学）
  - (1) 大学改革の状況について
  - (2) 教職大学院について
  - (3) 大学院、学部の入試について
  - (4) 大学と地域の美術館の連携について
  - (5) 研究および教育の資金について
  - (6) その他
    - ・熊本地震への各大学の協力について
    - ・教大協九州地区美術部門入退会者の調査について

以上。

記録：喜久山悟（熊本大学）



## 平成28年度 各種委員会活動報告

### ■学校美術教育支援委員会

平成28年度委員は以下の6名である。佐藤昌彦（委員長、北海道教育大学）、遠藤敏明（附属学校部会・部会長、秋田大学）、片野 一（附属学校部会・副部会長、福島大学）、山田一美（附属学校部会・委員、東京学芸大学）、柳沼宏寿（学校教育支援部会・部会長、新潟大学）、上山 浩（学校教育支援部会・副部会長）。次に主な活動に関する概要を三つ示した。

- ①附属学校（幼・小・中・特別支援学校）…大学と附属との共同研究、教育実習における研究授業及び事前・事後研究会、公開研究大会に関わる研究協力。
- ②附属学校以外…道教委、県教委、市教委等が主催する研修会への協力、教育実習における研究授業及び事前・事後研究会への出席。
- ③平成28年度日本教育大学協会全国美術部門協議会・第55回大学美術教育学会・北海道大会（大会テーマ：美術と教育における地域の多様性）…学会代表・副代表・総務局等との連携、大会開催の準備・実施・引継等。

### ■大学造形教育連絡協議会

大学造形教育連絡協議会の9名の委員は、全国造形教育連盟大学部会委員も兼務した。佐藤昌彦（委員長）、新野貴則（総務局長、山梨大学）、西村德行（総務局、東京学芸大学）、虎尾 裕（委員、宮城教育大学）、村上タカシ（委員、宮城教育大学）、岡田匡史（委員、信州大学）、大島賢一（委員、信州大学）、白井嘉尚（幹事、静岡大学）、村松俊夫（幹事、山梨大学）。以下に主な活動に関する概要を三つ示した。

- ①平成28年度全造連本部役員会出席（出席者：総務局長・新野貴則）…日時：平成28年3月3日、場所：東京都新宿区愛日小学校。内容：本年度の活動報告・決算報告と次年度の活動計画・予算案、宮城大会・長野大会〔平成29年11月17日（金）～18日（土）〕の確認、校種別・美術館部会意見交換等。
- ②第69回全国造形教育研究大会・宮城大会〔平成28年11月10日（木）～11日（金）〕への参加…校種別会議（11/10、10:20～11:20、実践発表を含む）への出席及び大学分科会シンポジウムでの司会や発表（11/11、14:30～16:50、○テーマ：よさや美しさ、司会者：立原慶一、パネリスト：佐藤昌彦、蝦名敦子、金子一夫、佐々木貴弘、三浦浩喜。○テーマ：つながり、司会者：村上タカシ、パネリスト：三澤一実、神野真吾、高安弘大）。
- ③全国代議員会（全国造形教育連盟）出席…活動計画・予算計画等の確認、各校種・各地区情報交換。

佐藤昌彦（北海道教育大学）

# 平成28年度 第1回 全国美術部門協議役員会報告 ①

日本教育大学協会全国美術部門

平成28年度 第1回 拡大総務局会報告

平成28年7月2日(土) 13:00～:18:00

アットビジネスセンター東京駅 304室

出席者:

小野代表・理事長、新関副代表(正)、八重樫副代表(副)、佐藤哲夫副理事長(正)、竹井副理事長(副)・学会誌委員長、芳賀特別委員、増田特別理事、新野総務局総務局長、喜多村総務局部門部長、佐藤賢司総務局総務部長、石上総務局委員・理事、西村総務局委員・理事、新實総務局委員・理事、阿部大会運営委員、佐藤昌彦学校美術教育支援委員会委員長・大学造形教育連絡協議会委員長、鈴木国際交流委員会委員長、一畝田地区全国理事

## 1. 挨拶

議事に先立ち、小野康男代表・理事長から挨拶があり、引き続き、参加者の自己紹介があった。

## 2. 全国美術部門各種委員会委員について

(1) 平成28年度 全国美術部門 役員・各種委員会委員(案)

新野総務局長より配布資料をもとに説明があり、承認された。未定のは照会中であることが報告された。

(2) 平成29年度以降の役員・総務局理事の選考

9月の総会において正式決定される現行の役員および委員の改選手続きでは、年度当初の運営に不安定さを内包しているため、前年度に決定できるようにしたい旨の提案があり、準備作業に取りかかることが了承された。役員および委員の交代人数については、各部局および委員会の実情に鑑みることが付された。

## 3. 全国美術部門の会計・予算について

(1) 平成28年度 全国美術部門の会計業務の現状と今後の方針

芳賀特別委員より、部門および学会の予算に関する資料をもとに過年度の決算状況について説明があり、会費滞納者が多いことと、厳しい現状が報告された。部門会員の増加が見込めないなかで運営を維持していくには、

会費納入率を上げることと、未納会員を減らすことが急務であり、学会会員の増加を図らなければならないことが確認された。

学会誌委員会の参会に係る旅費は原則全額支給とし、予算規模に応じた組織編成を行うとともに業務内容の精査ならびに委員数の適正化を検討することとなった。学会誌委員会の参会に係る旅費は原則全額支給とし、予算規模に応じた組織編成を行うとともに業務内容の精査ならびに委員数の適正化を検討することとなった。

総務局や運営会議等においては学会と部門について合わせて協議することから、その旅費と、部門と学会で共有しているホームページの管理費等については、会員数に応じて部門:学会=1:2を分担計上することが検討され、了承された。

## 4. 全国美術部門の事業について

(1) 平成27年度 部門事業報告

(2) 平成28年度 部門及び学会の事業計画(案)(運営委員会および拡大総務局の開催、会報の発行等について)

年6回開催している部門および学会の運営に係る諸会議について、新野総務局長より資料をもとに説明がなされると共に、厳しい予算状況を受け、経費削減と事業の簡素化を推進するため、諸会議の形態について見直すことが提案され、了承された。

新野総務局長および芳賀特別委員より、年2回発行している会報の現状について説明が行われ、年1回発行の方向で検討することが提案され、了承された。

(3) 部門入会に伴う学会入会の勧誘

新野総務局長より、新任教員に送付している部門入会案内に、学会概要を同送して、入会を促すことが提案され、了承された。

## 5. 総務局の今後の運営について

(1) 総務局の業務・役割分担

新野総務局長より、資料をもとに総務局の分掌および各種委員会委員長の業務について説明があり、確認された。

## 平成28年度 第1回 全国美術部門協議役員会報告 ②

### (2) 業務マニュアルの作成

新野総務局長より、総務局員に従事した業務のマニュアルを作成するよう依頼があった。

## 6. 北海道大会(平成28年度部門協議会・第55回大学美術教育学会)について

### (1) 準備状況と運営の課題

佐藤昌彦先生(北海道大学教育大学)より、大会開催期間中は校舎改築工事を中止する旨、また学生会議について別室を設けることが報告された。阿部大会運営委員より、資料をもとに準備状況が報告された。また、学生会議が口頭発表と重なっているため、次期大会から時間の調整を願いたい旨の発言があった。

### (2) 部門協議会の企画

新野総務局長より、部門協議会テーマ「これらからの造形美術教育を担う教員養成にかかわる大学の役割」(案)並びにパネリスト4名(阿部宏行【北海道教育大学】、小野康男【横浜国立大学】、新関伸也【滋賀大学】、三澤一実【武蔵野美術大学】)、コーディネーター1名(喜多村徹雄【群馬大学】)が提案され、了承された。詳細および進行についてはパネリスト並びにコーディネーターで検討することとし、了承された。

## 7. 各種委員会の事業計画について

### (1) 学校美術教育支援委員会(部門)

佐藤昌彦委員長より、附属学校の美術教育の姿勢を広報することを前委員長と検討し計画することが報告された。

### (2) 大学造形教育連絡協議会(部門)

佐藤昌彦委員長より、新野総務局長と協議しながら検討していくことが報告された。また、西村委員(総務局委員・理事)より、中学校教員配置の調査状況について報告があった。

### (3) 学会誌委員会(学会)

竹井委員長より、資料をもとに現状および今後の計画が報告された。

### (4) 国際交流委員会(学会)

鈴木委員長より、資料をもとに詳細な報告が行われた。

## 8. 外部諸団体との連携等について

### (1) 美術教育連絡協議会(8団体)(報告)

小野代表・理事長より、文部科学省に提出する、三つの力を柱にした美術教育の学力に関する提言を取りまとめる協議会が、小野理事長を座長に3学会および他団体並びに前教科調査官2名によって進行していることが報告された。

### (2) 造形芸術教育協議会(3学会)

芳賀特別委員より、大学美術教育学会から美術科教育学会静岡大会における3学会連携行事で発表する研究者の推薦依頼があり、後日検討のうえ推薦することが了承された。

### (3) 教育関連学会連絡協議会に対する今後の方針

新野総務局長より、資料をもとに外部諸団体との連携協力状況について説明があり、協議の結果、今年度をもって教育関連学会連絡協議会から脱会することが議決された。

## 9. その他

### (1) 各地区会規定の改正について(報告)

新野総務局長より、資料をもとに地区会規程改正の回答状況が報告された。

また、大学美術教育学会の「会員の会費に関する細則」の一部に修正漏れがあったため、協議の結果、修正漏れを正すことが決議された。

### (2) 全国美術部門の新規会員の入会状況(報告)

新野総務局長より、7月2日現在の部門入退会状況について、4地区から報告があり、新規入会者4名/退会者8名であり、残り4地区からの回答を待っていることが報告された。

## 10. 閉会

佐藤哲夫副理事長より、閉会の辞がなされた。

喜多村徹雄(群馬大学)

## 日本教育大学協会全国美術部門 平成27年度決算

### □収入

(円)

	費 目	平成 27 年度予算	平成 27 年度決算	備 考
	前年度繰越金	70,714	70,714	
年会費	会費納入 (収入)	993,000	711,000	会費納入: 3,000 円×237 名
			129,000	過年度会費納入: 43 名
	会費未納	-	(282,000)	会費未納: 94 名
助成金	教大協助成金	80,000	80,000	
	合 計	1,143,714	989,714	

※平成 27 年度 全国美術部門の会員数 331 名

### ■支出

(円)

	費 目	平成 27 年度予算	平成 27 年度決算	備 考
補助金	全国協議会補助金	200,000	200,000	
印刷製本費	会報刊行費 (発送費込み)	250,000	263,390	
	名簿刊行費 (発送費込み)	100,000	66,096	
	調査・資料製作費	20,000	-	
運営費	部門役員会費	100,000	53,284	
	特別課題検討委員会費	100,000	55,504	
	学校支援委員会費	100,000	0	
事務経費	郵送費	80,000	57,750	
	事務費	5,000	27,000	
	雑費	5,000	0	
委託費	事務支局業務委託費	100,000	97,200	
負担金	全造連負担金	4,000	4,000	年会費
予備費	予備費	79,714	165,490	
	合 計	1,143,714	989,714	

日本教育大学協会全国美術部門 平成 28 年度予算

□収入

(円)

	費 目	平成 28 年度予算案	備 考
	前年度繰越金	70,714	
年会費	会費納入 (収入)	981,000	3,000 円×327 名
助成金	教大協助成金	80,000	
	合 計	1,131,714	

■支出

(円)

	費 目	平成 28 年度予算案	備 考
補助金	全国協議会補助金	200,000	
印刷製本費	会報刊行費 (発送費込み)	200,000	
	名簿刊行費 (発送費込み)	0	
	委員会報告書 (発送費込み)	0	
	封筒その他印刷	50,000	
運営費	運営委員会・部門役員会費	400,000	
	特別課題検討委員会費	—	
	学校支援委員会費	—	
事務経費	支払手数料	10,000	
	通信費	10,000	
	郵送費	10,000	
	事務費	10,000	
	雑費	10,000	
委託費	事務支局業務委託費	100,000	
負担金	全造連負担金	4,000	
予備費	予備費	127,714	
	合 計	1,131,714	

平成27年度 事業報告

6月上旬	「部門会報・第47号/横浜大会案内」 発行・郵送
6月8日(月)	H27 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦
6月21日(日)	第1回運営委員会(東京/TKP スター貸会議室)
9月1日(火)	横浜大会参加申込 締切
9月上旬	「横浜大会案内(最終)」 平成26年度会計監査 (大嶋監事・岩村監事)
9月11日(日)	第2回運営委員会(東京/TKP スター貸会議室)
9月19日(土)	大会前日諸会議: 拡大総務局会、第1回全国美術部門役員会、各種委員会(学校支援委員会、特別課題検討委員会)、全造連大学委員会(全美協との合同協議)
9月20日(日)	第54回大学美術教育学会「横浜大会」
9月21日(月)	部門・学会合同開催式(横浜国立大学)、部門協議会、総会、部門・学会合同懇親会、シンポジウム、ポスター発表・ポスター展示、研究発表(口頭)、閉会式、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-北海道教育大学)
10月下旬	「部門会報・第48号」発行・郵送
11月12日(木)~13日(金)	第68回全国造形教育研究大会 2015/岐阜大会
12月1日(火)	日本教育大学協会への事業実績報告(H27.4-12 事業分)
(平成28年)	
1月22日(金)	日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(東京学芸大学本部)
1月24日(日)	部門運営委員会(アットビジネスセンター東京駅)
3月上旬	拡大総務局会・第2回拡大理事会(役員・委員長出席)・第2回全国美術部門役員会、各種委員会(学校支援委員会、特別課題検討委員会)(アットビジネスセンター東京駅)
3月末日	次年度 組織・運営に関する執行部・各役員の引き継ぎ 「部門会報・第49号(次期大会予告)」 発行・郵送
4月1日(金)	日本教育大学協会への事業報告(H27.12-H28.3 事業分)

平成28年度 事業計画(案)

5月上旬	「部門会報・第49号/北海道大会一次案内」発行・郵送
5月19日(木)	H28 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦
7月上旬	「北海道大会二次案内/学会誌投稿案内」発行・郵送
7月2日(土)	第1回拡大総務局会議(東京/ABC 貸会議室)
9月1日(木)	北海道大会参加申込 締切
9月上旬	「北海道大会案内(最終)」 平成27年度会計監査 (白井監事・村松監事)
9月中旬	第1回運営委員会(メール会議)
9月23日(土)	大会前日諸会議: 第2回拡大総務局会、第1回全国美術部門役員会、各種委員会、全造連大学委員会(全美協との合同協議)
9月24日(土)~9月25日(日)	第55回大学美術教育学会「北海道大会」: 部門・学会合同開催式(北海道教育大学)、部門協議会、総会、部門・学会合同懇親会、シンポジウム、ポスター発表、研究発表(口頭)、閉会式、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-広島大学)
11月10日(木)~11日(金)	第69回全国造形教育研究大会 宮城大会
12月1日(木)	日本教育大学協会への事業実績報告(H28.4-12 事業分)
(平成29年)	
1月下旬	日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(東京学芸大学本部)
1月下旬	第2回運営委員会
3月上旬	第2回全国美術部門役員会(メール会議)
3月末日	「部門会報・第50号(次期大会予告)」 発行・郵送
4月1日(金)	日本教育大学協会への事業報告(H28.12-H29.3 事業分)

平成29年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会

第56回 大学美術教育学会「広島大会」(ご案内)

## 大会テーマ

これからの美術教育で育成すべき資質・能力を考える

### ◇内容

研究発表、ポスター発表、座談会、総会、諸会議、懇親会等

### ◇日時

平成29年9月23日(土) 受付開始予定9:00

9月24日(日) 受付開始予定9:00

※役員会・各種委員会

9月22日(金) 受付開始予定12:30



### ◇会場

広島大学東広島キャンパス 教育学研究科

〒759-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1

\*広島市内から電車、バス等利用で1時間ほどかかります。

### ◇申込方法

e-naf+ (オンライン大会登録受付システム) による参加申込みは終了しています。  
大会参加は当日受付も可能です。

### ◇参加費

会員・一般 5000円(当日)

院生・学生 3000円(当日)

※院生には現職教員も含む。

### ◇懇親会費

会員・一般 6000円(当日)

院生・学生 4000円(当日)

※院生には現職教員も含む。

会場: 広島大学西2 食堂ホール

### 【注意事項】

- ・宿泊の斡旋は行いません。広島は観光シーズンでもあり、混雑が予想されます。参加者ご自身で、早めの確保をお願いします。
- ・大学の休業期間中でもあり、昼食をとるところが少なくなります。事前にご用意しておくことをお勧めします。

### 【問合せ】

大学美術教育学会広島大会準備委員会

運営委員 三根和浪(広島大学教育学研究科)

kmine@hiroshima-u.ac.jp

### 【会場へのアクセス】

JR山陽線、JR新幹線、高速バス、山陽自動車道等を利用できます。

下記URLでご確認下さい。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/access/higas>  
hihiroshima



## お問い合わせ先について

日本教育大学協会全国美術部門並びに大学美術教育学会において、平成20年度以降、一大学の事務局運営から全国各地の大学教員による総務局体制で運営を変更しました。平成26年度には、業務の一部をアウトソーシング（中西印刷株式会社に業務委託）し、効率的で持続可能な運営を目指しています。

つきましては、会員管理・会費に関するお問い合わせは、大学美術教育学会事務支局（中西印刷株式会社内）へ、その他については、総務局へお問い合わせください。

<会員管理・会費関連に関するお問い合わせ>

大学美術教育学会事務支局

（中西印刷株式会社内）

Tel: 075-415-3661 E-mail: uaesj@nacos.com

<総務局へのお問い合わせ>

総務局専用メールアドレス

E-mail: daibibumon@uaesj.com

\*大学美術教育学会並びに全国美術部門の活動について、主に総務局長がこのメールへの問い合わせに対応いたします。

## 年会費の支払いに関するお願い

日本教育大学協会全国美術部門は、皆様の年会費により運営されています。年会費の支払いにご協力くださいますようお願い致します。

滞納されている方は、早めに納入頂けますようご協力をお願いいたします。

また、払込取扱票の再発行はいたしかねますので、未納額がご不明な場合には事務支局へお問い合わせ願います。また、領収証は払込の控えをもって代替いたしますので、ご了承ください。

### ■振込先

口座番号：00940-9-173101

加入者名：日本教育大学協会全国美術部門

※大会参加費の送金先とは異なります。ご注意ください。

## 中学校美術科教員実態調査について

昨年度に引き続き、平成28年6月から11月にかけて、中学校美術科教員実態調査を実施しました。

この調査は、中学校の美術科の専任教諭や非常勤講師の中学校への配属状況等について把握することで、今後の美術科教育の振興に資することを目的としています。平成26年3月に全国大学造形美術教育教員養成協議会と日本教育大学協会（以下、教大協）全国美術部門とで組織された大学造形教育連絡協議会の事業の一環として、全国造形教育連盟大学部会において実施することが決定しました。

全国造形教育連盟に所属する各都道府県・政令指定都市の事務局を対象に質問紙調査を行い、41の事務局から回答を得ました（回収率約61%）。調査項目は以下の6項目です。

1. 公立学校数、2. 美術科専任教諭配置校数、3. 臨時的任用教員対応校数、4. 非常勤教員・講師対応校数、5. 免許外教員で対応校数、6. 複数校兼務担当教員数

美術科の専任教諭を配置している学校は約62%、配置していない学校は38%あること、非常勤教員・講師で対応している学校や免許外教員で対応している学校の数は都道府県によって大きな差があることなどが本調査を通して明らかになりました。

この結果は、平成28年度教大協全国研究部門代表者連絡協議会を通して、教大協会長へ「中学校美術科担当専任教諭の適正配置に関する要望書」として提出されました。今後、教大協で整理したものが文部科学省へ提出されることとなっています。

また、本調査は、信頼性・有用性の向上を目指して調査方法や調査時期などを改善しながら、継続的に実施していく予定です。今後とも、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

日本教育大学協会全国美術部門代表 小野康男  
同 総務局委員 西村德行

### 【総務局広報室】

新野貴則（山梨大学）  
石上城行（埼玉大学）  
喜多村徹雄（群馬大学）  
佐藤賢司（大阪教育大学）

